2．キャッシュ・フロー計算書関係

⑴　資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	987,992千円
資金期末残高	987,992千円

⑵　重要な非資金取引

現物寄附の受入による資産の取得

建物	11,798千円
建物附属設備	11,467千円
構築物	1,173千円
工具器具備品	20,093千円
図書	5,206千円
計	49,740千円

3．重要な債務負担行為　（単位：千円）

件名	契約済額	平成24年度支出予定額	平成23年度支出決議済額
外国定期刊行物	8,655	7,498	1,157

4．減損会計関係

⑴　減損を認識した固定資産に関する事項

①　減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要　（単位：千円）

用途	種類	場所	帳簿価額
敷地	土地	椛の湖研修所（岐阜県中津川市上野字椛の木587－１）	35,230
職員住宅	建物	六供住宅（愛知県岡崎市六供町字八貫15）	5,188

②　減損の認識に至った経緯

椛の湖研修所は、市場価格が著しく下落している。

六供住宅は、利用率が著しく低下している。

③　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳　（単位：千円）

場所	種類	減損額	うち損益計算書に計上した金額	うち損益計算書に計上していない金額
椛の湖研修所	土地	19,230	—	19,230
六供住宅	建物	3,242	—	3,242

④　回収可能サービス価額

椛の湖研修所は、平成24年３月における鑑定評価額を基にした正味売却価額を用いている。

六供住宅は、使用価値相当額が正味売却価額より高いため、使用価値相当額を採用している。

使用価値相当額については、当該資産の帳簿価額に、当該資産につき使用が想定されていない部分以外の部分の割合を乗じて算出した価額を用いている。

⑵　翌事業年度以降の特定の日以後使用しないという決定をした固定資産に関する事項

①　使用しないという決定を行った固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要　（単位：千円）

用途	種類	場所	帳簿価額
職員住宅	建物	井ヶ谷住宅３号棟（愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1）	30,396

②　使用しなくなる日

平成26年３月（予定）

③　使用しないという決定を行った経緯及び理由

平成24年２月21日より改修工事等は行わず、閉鎖することが決定したため。

④　将来の使用しなくなる日における帳簿価額、回収可能サービス価額及び減損額の見込額　（単位：千円）

場所	種類	帳簿価額	回収可能サービス価額	減損額の見込額
井ヶ谷住宅３号棟	建物	24,425	—	24,425

5．金融商品に関する注記

⑴　金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定している。

資金運用に当たっては国立大学法人法35条が準用する独立行政法人通則法第47条の規定に基づき、国債のみを保有しており株式等は保有していない。

⑵　金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。　（単位：千円）

	貸借対照表計上額（※１）	時価（※１）	差額
①　投資有価証券及び有価証券満期保有目的の債券	612,961	612,960	0
②　現金及び預金	987,992	987,992	—
③　未払金	(896,105)	(896,105)	—

（※１）　負債に計上されているものについては（　）で示している。

①　投資有価証券及び有価証券

これらの時価について、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっている。

②　現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

③　未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

6．賃貸等不動産の時価等に関する注記

当法人は、賃貸等不動産を有しているが、重要性が乏しいため記載を省略している。